

郷土を語り
人々の輪が広がる

東京奈良県人会だより

編集発行所：一般社団法人 東京奈良県人会 発行人：西 与吏郎（2016年春号）

〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-6-3 奈良県東京事務所内 電話 03-5210-2838 HP: <http://tkynarakenjinkai.jimdo.com/>

TOKYO NARA HUMAN NETWORK NEWS NO. 38

●● 平成27年度『ふるさと奈良の集い』 ●●

平成27年11月12日 「ふるさと奈良の集い」が奈良県と当県人会共催で東京マリオットホテルで300名近くの参加を得て盛大に開催されました。ここでは、ご挨拶されました荒井奈良県知事及び西東京奈良県人会会長のご挨拶をダイジェスト版で掲載します。

【奈良県知事：荒井正吾】



『ふるさと奈良の集い』を開催致しましたところ、年々参加者の方が増えて参りまして、今年は280名の参加をいただきました。また、森トラスト様の計らいでこの様な立派なテーブルでさせていただくことになりました。皆様のご協力に感謝申し上げます。

この集いは奈良県出身者の方だけでなく奈良で働いていただきました公務員の方々や縁のある民間の方々をお誘いしてこのような会を開きました。また、テーブルはそれぞれの縁のある地域毎、市町村毎に配置させていただいておりますので、是非御懇談賜りますと共に、名簿をご覧になってお知り合いの方がおられましたら是非テーブルを渡っていただければ結構でございます。

また、県人会のお世話していただいております西東京奈良県人会会長様はじめ大変なご協力をいただいております。また、皆様方にはふるさと納税ということでご協力いただきましてありがとうございます。ふるさと納税のお陰で色々な事業を進めさせていただいております。御礼を申し上げますと共に、今後ともこれまで以上のご支援を賜ればと思いますが、さらに企業のふるさと納税というもできておりますので、何かこのような大きな事業をしようということでありましたら色々なふるさと納税の仕組みを利用いただければと思います。

【東京奈良県人会会長：西与吏郎】

本日は大勢の皆様にお忙しい中ご参加いただきまして誠にありがとうございます。平素はご協力、ご支援を賜りありがとうございます。皆様のお陰をもちまして120年続きました県人会、継続していくことの重大さを自覚しつつ、法人化した県人会が一層充実した会へと役員の皆様と共に協力していく所存でございます。特に若手の会には活発な活動をしており、今後、会を背負っていく人達として喜びを感じている次第でございます。



●● (一社)東京奈良県人会 平成27年度「文化交流会」 ●●

さる平成27年12月7日(月)都道府県会館会議室において「27年度文化交流会」が開催されました。ここでは講演会と懇親会の概略を掲載します。

□ 講演会 □

演題：「舞踏と私」

講師：舞踏家

銚久奈緒美(大駱駝艦所属)

略歴：奈良女子大学附属高校卒業後、お茶の水女子大学

舞踊科を専攻。卒業後、

桜井市出身の舞踏家、磨赤兒氏主宰の舞踏集団「大駱駝艦」に入団。白塗りの身体を使って表現する独特の舞踏が国内外で高く評価されている。



舞踏とは

銚久：今日は「舞踏と私」という題でお話しさせていただきます。私は1983年に奈良市あやめ池で生まれました。奈良女子大学文学部附属幼稚園に入り、そのまま小中学と通いました。中学校のときに中等教育学校と名前が変わり、その中等教育学校を卒業しました。幼稚園のときからクラシックバレエを習い続け、お茶の水女子大学の舞踊教育学コースに入りました。在学中に「大駱駝艦」と出会い、現在「大駱駝艦」に所属して活動しております。

「舞踏」という言葉をご存じでしょうか。日本ではあまり知られていなくて、「戦う方(武闘)か」と言われます。「舞って踏む」とお伝えしないと分かってもらえないのが現状ですので、まず舞踏についてご説明します。

舞踏とはクラシックバレエや西洋舞踊の真似ではなく日本独自の文化や様式を主にした動きや身体から、土方巽が1960年代に創始したものです。男性は剃髪といって頭を坊主に剃り、体を白塗りに塗った裸に近い姿が多くそのイメージがあります。私たちは衣装を着ることが多いのですが、だいたい舞踏というと、この剃髪・白塗り・裸体ということがトレードマークになっています。重心をグッと低くする体勢でちょっと気持ち悪い感じにと

えられますが舞踏にはいろいろな形があります。土方巽から始まりどんどん枝分かれしていき、系統によっては髪を生やしていたり白塗りにない舞踏もあるので一概に舞踏はこうだというふうにお伝えすることができません。

舞踏の根本は、肉体に向き合って踊りをつくるということでバレエや一般的な西洋のダンスとは違い禅などに通じる感じです。海外では認知されていて、海外ツアーも多く行っています。

今はフランスでの公演が多いです。海外では「BUTOH」(ブトウ)とそのままだと呼ばれています。「山海塾」をご存じの方は多いかもしれませんが、山海塾も元は大駱駝艦から派生し、磨赤兒と共に大駱駝艦を立上げた1人である天見牛大さんのグループで、大野一雄さんも土方巽と共に舞踏をつくりあげた人です。

ほかには田中泯さんが俳優としても活躍されています。舞踏は一見すると気持ちが悪いとか、とっつきにくいと思われるかもしれませんが今日をきっかけにちょっとでも興味がわいたり、ちょっと見てみたいなと思っていただけたら嬉しいです。

大駱駝艦とは

まず私が所属する大駱駝艦についてご説明させていただきます。大駱駝艦は1972年に磨赤兒を中心に結成されました。磨は初め「舞踏」とは呼ばずに、自分たちがやっている舞台のことを「天賦典式」(磨赤兒の造語)と言って天賦の才を式典という舞台に上げる、この世に生まれ入ったことこそ大いなる才能であり、その身体自体を舞台に上げてしまおうというのが天賦典式の意味です。それから43年間舞台をつくり続けて上演を重ねております。

現在、磨を含めて男13人・女9人の総勢22人のメンバーが所属しております。磨をドラマや映画で見たことがある方も多いと思いますが、磨は奈良県桜井市出

身で畝傍高校を卒業し現在73歳です。俳優としても活躍しており最近では俳優の大森南朋^{おおもり なお}の父親としても有名です。磨は早稲田大学在学中に劇作家で芥川賞受賞者である唐十郎^{からじゅうろう}に出会い、唐十郎と劇団「状況劇場」を設立。そこで俳優として活躍します。その頃に舞踏の創始者土方巽とも出会い、土方巽の稽古場に入出入りするようになります。

そして1970年に状況劇場を辞めて1972年に自ら大駱駝艦を旗揚げし主宰することになります。

大駱駝艦の作品紹介

大駱駝艦の作品を紹介させていただきます。作品は何本もありますが、代表的なものをいくつかご紹介させていただきます。

「海印の馬」という作品は1980年に発表して、各国の舞台芸術フェスティバルのディレクターの目に触れて、日本の舞踏がフランスやアメリカへと広く知られるきっかけとなった大駱駝艦の代表作です。京都の四条南座でも上演されました。

私は2005年大学在学中に大駱駝艦に入りました。初めて舞台を踏んだのがイスラエルのテルアビブ・オペラセンターとエルサレム・シュローバーシアターですごく大きな舞台でした。町に銃を持った人がいっぱいいるなど思いながらも、舞台で踊ることに精一杯であつという間に走り抜けて終わった感じでした。日本では観客が総立ちになることはなかなかありませんが、イスラエルでの初舞台はスタンディングオベーションでとても感動したことを覚えています。

続いて「灰の人」という作品です。こちらは2011年の3月17日に初演を迎えます。東日本大震災のときはちょうど世田谷区三軒茶屋の「世田谷パブリックシアター」の稽古場地下4階で通し稽古をしていてすごく大きく揺れました。初めは踊っている最中だったので「変な感じだなあ」と感じる程度でしたがそのうち「これは何かちよつと違うぞ」となり稽古場から避難をしました。1週間後に本番で周囲では公演を自粛するという声が多くありましたが、磨は「大駱駝艦として今やらなくていつやるんだ」と言って余震が続く中、全日程をやり遂げました。余震の中、白塗りをしたまま、いつでも避難できる準備をしな

がら舞台に臨んでいました。その「灰の人」は、灰をテーマにした作品で天変地異という地震や火事で全部が灰になってしまった世の中から新しく再生していくというテーマのタイムリーな作品だったので磨が地震を呼んでしまったのではないかと言われたりもしました。私はシンデレラごっこをして遊ぶ姉妹の役をやりましたが、「シンデレラ」は日本語で「灰かぶり姫」と言います。そのシンデレラをもじって、デレシンラというシーンでシンデレラ遊びをします。シンデレラが宮殿に駆け上がっていくところを踊っていきます。階段を駆け上がる場面を考えるにあたり、いろいろな階段を駆け上がり稽古をしました。そして最後に自分の体、つまりシンデレラの体が焼かれて灰となり、また再生するというシーンがあり自分の体が焼かれるという踊りをどう演じようかと考えたときに、肉や魚、スルメを焼いて観察して、それを振り付けに取り入れたこともありました。大駱駝艦の踊りの振付けのヒントは全て日常の中にあります。

次に「ムシノホシ」という作品ですが、去年世田谷パブリックシアターで初演し、パリやバンクーバーでも再演されました。地球上の多様な環境において自らを変化し続けながら生き延びてきた虫を宇宙からのメッセージを受け止めている生物として捉えた作品です。アリの行列をイメージしたシーンや、ハエが顔を洗うという虫の動きを観察して人間からどどん虫のほうに進化していくという感じで作った作品です。

白馬村合宿と金粉ショー

大駱駝艦は毎年夏に世界中から舞踏に興味を持つ人を集めて特別体験舞踏合宿を行っています。8泊9日間、合宿所で寝食を共にしながら舞踏を学び、最終日に野外舞台で合宿生と大駱駝艦とで公演を作ります。私が大駱駝艦に入ったきっかけも、当時この合宿に参加したことです。幼稚園のころからクラシックバレエを習い、踊りに携わる仕事に就きたいとお茶の水女子大学の舞踊教育学コースに入学しました。授業の中で舞踏を紹介する授業があり学んでいるときにたまたま合宿のチラシを手にして、気楽な気持ちで友達と2人で参加したらはまってしまいました。磨赤児が野外で白塗りで踊るのですが、その踊りにすごく感動しました。先

ほどご紹介した天賦典式という自分の体を舞台にさらけ出すということにとりこになってしまって、今10年になりませんが活動を続けています。

合宿には海外から参加する人が多くて半分くらいは外国人です。私は英語がしゃべれませんがボディランゲージで通じます。日本各地からいろいろな年齢・職業の人が参加していて、毎年新しい出会いがあります。男性は公演前に断髪式をやるのですが、ほとんどの人は髪を剃って帰ります。

合宿を通じて大駱駝艦に入りたいという人が多く、私もそうですし、メンバーのほとんども合宿に参加して入ってきます。

その合宿をテーマにしたドキュメンタリー映画「裸の夏」は釜山映画祭や海外の映画祭で上演され評判を呼んだ作品です。もし興味がありましたらインターネットで販売していますのでぜひ。大駱駝艦の舞踏のメソッドや大駱駝艦の映像も入っているのでよろしければ購入してください。映画は2008年に全国で上映されて、2003年の合宿のドキュメンタリーで私が合宿生のときのものでした。

次は「金粉ショー」です。「大駱駝艦」で検索するとユーチューブでは金粉ショーが出てきます。金粉ショーは街中で大道芸というかたちで踊っているところを一般の人が撮ってそれをユーチューブに上げてしまうので、それを見た人は金粉ショーをやっている集団だというふうに思ってしまうのですが舞台と並行してやっています。

60年代に土方巽がやっていた金粉ショーを磨はキャバレーで演じ生活費や舞台の資金を得ていました。舞台に見に来てもらうというよりも街中で全然知らない一般の人々の前で踊ることがすごく踊りの鍛錬になるといふか踊り手の実力につながっていくという考えで今も金粉ショーは続いています。

70年代はキャバレーと舞台を並行していましたが、80年代にキャバレーがどんどんなくなっていき、金粉ショーを演じる機会が少なくなっていました。その後は名古屋の大須大道町人祭で毎年1回金粉ショーをやっていました。近年は各地で大道芸フェスティバルが開催されるようになり我々も三軒茶屋や高円寺、池袋などで出演しているのでご興味があれば、ぜひ見に来てください。

お子さまでも見られるようにショーとして作っていますので機会があればぜひ。

自作品「白鳥湖」「阿修羅」

大駱駝艦では磨赤兒が主に作品を作りますが、磨以外のメンバーが作品を作りたいと希望した場合にはその機会が与えられます。その作品が海外で発表されることもあります。私も2010年に「白鳥湖」、2015年に「阿修羅」という作品を作りました。

クラシックバレエは高く跳んだり回ったりと外に向かって表現する踊りですが、舞踏はちぢこまったり下のほうに向かっていくというか、自分の内側に向かっていく真逆の踊りです。ずっとクラシックバレエを習ってきたことと舞踏にたどりついたということは切り離したくないというか、そのどちらも合わせた私の踊りが作りたくて「白鳥の湖」を元にした舞踏作品を最初に作りました。

「白鳥の湖」は白鳥が王子様と恋に落ちるのですが王子様は黒鳥と白鳥を間違えて黒鳥に誘惑されて白鳥を裏切るのです。そこでだまされてしまうことが私には何か腑に落ちなくて、王子様よりも黒鳥、王子様をだます悪魔の方がかっこいいというか悪魔のロットバルトに焦点を当てました。光を包む柔な王子様よりも夜陰の力が光を飲み込むという感じで「白鳥湖」を作りました。

次に「阿修羅」という作品を2015年の9月に発表しました。皆さまご存じで全国的にもすごく有名な興福寺の阿修羅像をテーマにしました。私は奈良に生まれて高校卒業まで奈良で育ちました。奈良にいと奈良の文化にあまり興味がないというか、興味がないわけではないのですが、あまりに身近過ぎてそのすごさに全然気づきませんでした。10年以上東京に住んでいます。「奈良って本当にすごいね」と言われることが多くて、それで奈良に帰るたびにいろいろなお寺を巡るようになりました。

カメラマンの上田義彦さんが私を撮影するときにちょうど奈良で阿修羅を見てきた後だったらしくて、私のことを「阿修羅に似ている」とおっしゃってくださいました。それまでは全然意識しなかったのですが阿修羅について興味を持つようになりました。阿修羅のことを調べると戦争の神なのに興福寺の阿修羅は泣いているといふか憂い

を帯びているというか何か悲しいような表情をしていることに気づきました。そして戦いの神からこの表情にたどり着くまでの旅路を作品にしたいと思い作品を作りました。

私たちは踊るときに自分で動かずに何かに動かされているというふうに踊っています。例えば手をグーパー、グーパーするときに、手の中にピンポン玉や光の玉が生まれるというふうにイメージして、その光の玉がバーッと開いていくというふうにイメージすると動かされる手の動きが生まれてくるんですね。普通にただ自発的に体を動かすのではなくて、まず、体の中身は空っぽだと私たちは考え、周りの空間こそが実体だと考えます。その空間の間(ま)に実体が宿り、その空間の間というのが悪魔の間というか、何かそういう私を動かすものが神に通じていくということで間に動かされて自分の動きが作られていくというふうに私たちは考え、動かされて踊りを作っていきます。阿修羅は脱乾漆像で中が空洞です。中が空洞であることが共通しています。その阿修羅を作り上げた人たちが1300年前の奈良にいたこと、その阿修羅を作った人は戦いの神様なのにあのような表情にして、人々の平和の祈りが込められて作り上げられた。それが1300年もの間、戦争や火事から守り続けてきた奈良の人々とその像に深く感動して、そのおかげで作品を作り上げることが出来たと思っています。

私の作品の阿修羅は白塗りの体で、手に赤い染料を塗った女性たちがその手を私の体に塗りつけていって白い体がどんどん赤く塗られていきます。阿修羅はもともと赤い像だったと聞いてたどり着いた表現です。やはり赤というのは血塗られていくとか戦争をイメージします。手が持っているパワーというか太陽をつかむパワーというか、そういう赤いものを私の体に託すみたいな気持ちで阿修羅が平和へと立ち上がると考えてシーンを作り上げました。

戦後70年という節目の年にこういう阿修羅を作り上げられたことが私にとってとても重要なことで、この作品を奈良や他のところでも再演することが私の今の目標です。

これで講演を終わらせていただきます。ありがとうございました。(拍手)

司会(植嶋副会長)：鉾久様、ありがとうございました。

45分間心地よく聞かせていただき、よく分かりました。皆さまご質問いただければと思います。

加木(五條市)：阿修羅の演出にあたり学ばれたということですが、阿修羅像を見た瞬間に何か思いついたのか、それともよく考えられて作品を作り上げたのでしょうか。

鉾久：実際に阿修羅像を何回も見に行っても感じるものがありました。今年「阿修羅」を作ることが決まり上演する機会をいただいて、お正月に興福寺に阿修羅に会いに行ったときに何かちょっと笑っていただいたような気がしたりして、そういう感情とか、阿修羅が戦争の神からざんげの精神に至ったと本で読んで、どちらもですかね。勉強して、そして感じたことですね。

平井：今日は興味深いご講演をありがとうございます。始まる前から鉾久さんの見た感じと阿修羅像のギャップをものすごく感じておまして、クラシックバレエをなぜそのまま続けられずに舞踏の方に行かれたのかということろを教えてくださいませんか。

鉾久：クラシックバレエはずっと好きでやっていたのですが、それを職業にするのは敷居が高いというか、舞台の裏方とか支える側になりたい、制作する側にして大学に入りましたが磨の踊りを見て感化されてしまいました。今もプロでずっとやっていけるとは思わないというか、踊っていきたいという気持ちはあるのですが、もうやめられないというか。今は阿修羅を再演したいという気持ちもあり、何かに導かれてこの場にいるというか、踊りを踊らせてもらっているなという感じでやっています。

松本副会長(吉野町)：こういう芸術に邁進して人生を賭けるということに、私は尊敬します。私は事業を行っていますが事業の方程式というのはそんなに難しくありません。芸術を追求していく、また舞踏を追求していくというのは際限のないものだと思うのですが、事業をやって儲ける目的をどんどん作るのと同じように、どんどん目的が変わって進化していく、深く掘り下げていくよう

に変化していているのでしょうか。

銚久：どう稽古をしていくかという「自分で動かない」ということを目標に稽古をしていきます。自分で動かないとか考えずに踊るようになるには自分を捨てるというか、どうイメージしていくか何に動かされているかということに嘘がなくやるように稽古していくことがいけば大変で、それをずっとやってきたとは思っています。

司会：どうもありがとうございました。それではちょうど時間になりましたので、銚久さんの講演は終了といたします。

□ 会員交流会 □

(奈良県東京事務所の上田所長の乾杯の発声により会員交流会が開会)

司会(植嶋副会長)：今日は平宗^{ひらそう}さんから柿の葉寿司を提供して頂いておりますのでまず、平井社長様一言お願いします。

平井(吉野町)：随分とご無沙汰しております。何度か県人会のほうにも出席をさせていただいております。奈良県は吉野郡上市出身の平井宗助と申します。柿の葉寿司はその名前をとって「平宗」(ひらそう)というブランドです。今日はいつもと違う柿の葉寿司ということで、サバとユズダイコンという柿の葉寿司を提供させていただいております。今朝、丸の内南口の吉兆でお店を出させていただいております。それ以外にもいろいろな所で対人販売に力を入れております。近々また浅草周辺にお店を出したいなと思っております。また引き続き何かいい情報があれば教えていただければと思います。どうぞよろしく願いをいたします。

今日はこの平宗ということと、あと私は2009年から、皆さんよくご存じの河瀬直美さんが理事長を務めております「なら国際映画祭」の理事をさせていただいております。2年に1回の開催ということで2010年第1回目、12年2回目、14年3回目、次16年4回目の開催になります。皆さまいろいろな方々からのご縁のおかげで、ようやく3回が迎えられまして、4回目ということになってお

ります。

今日は皆さまにふるさと納税のお願いということで、奈良市にさせていただきましたら6番という番号を選んでいただけますと、皆さまのご厚意がなら国際映画祭に一部当ていただけるということでございます。奈良市のふるさと納税ですね。いろいろおいしいものなどがありますので、その辺のことを映画祭の事務局からご案内させていただきます。

レイモス(生駒市)：東京でご活躍されていらっしゃいます奈良県人会の皆さまとこのように場を共有させていただく機会を頂けて、本当にありがとうございます。私は奈良県生駒市に住んでおりまして、今年からなら国際映画祭に関わりだしています。2016年は2年に1回の映画祭です。奈良市は皆さんご存じかもしれませんが映画館がなくなってしまいました。この奈良市のこともたちは、どうやって映画を見たらいいのでしょうかという状況になってしまっています。少しでもそういう映画をやっていく機会を作りたいと、子ども向けのプログラムを上映したりとか、いろいろなかたちで映画を楽しんでいただけるような活動をしておりますので、ぜひぜひ応援の意味をこめて、ふるさと納税の6番に丸をしてご支援いただけたらと思います。

(奈良市から提供されたふるさと納税の景品の抽選会、養徳学舎の寮生の挨拶に続き、中村県人会理事の中締めにより、盛会のうちにお開きとなった)



●● 新年賀詞交歓会 ●●

さる2月3日Sun-mi高松 銀座7丁目店にて新年賀詞交歓会が開催されました。ここではミニ講演会と懇親会の模様を掲載いたします。

□ ミニ講演会 □



(会長の挨拶に続き、阪本理事の司会のもと講演会が開会)

司会(阪本理事)：奈良県人会の副会長でもあり、商工中金経済研究所常務執行役員、また上席コンサルタントでもある植嶋平治様の講演「60分de経営戦略」をお願いします。

正暦寺の醸造が今の我々に教えるもの



きょうの話の結論めいたことについてはお手元の資料「留学僧がもたらした酒造日本一」という私のレポートがあります。これは一昨年の文化交流会で正暦寺の大原住職に奈良が清酒の発祥地だという話をしていたのですが、そのあと何回か大原さんと話をしているいろいろなヒントを得て共同通信に寄稿したものです。

ここに書いてある内容は、清酒が日本で最初にできたのが奈良だというもの、それはそれでいいんですが、なぜ正暦寺がお酒を造らざるを得なくなったかというのが一つのポイントで、これは現代のわれわれにも教えられることが多いということです。

大原さんの講演で、室町時代に正暦寺は1000人ぐらいの僧侶を抱え、全山200ぐらいの僧坊があって、大変栄えたお寺であったという話がございました。その1000人をどうやって食べさせるか。当然、莊園とか、当時の幕府からお金が出たわけですが、幕府自身が財政難に陥りましてお金は出せないということから、お酒造りに進んだとの話でした。今でいいますといわゆる民活ですね。政府が財政危機なんで、自分たちでなんとかしようということになったのと同じです。

ではなぜ正暦寺が醸造業に進出できたかという、これは仏教に関係があって、留学僧がもたらしたようだと考えられています。寺の記録が平重衡により全部焼かれてしまって、お寺には何も残っていないという、ちょっと悲惨な状況がありますが、東京農業大学の先生から、室町時代に書かれた文献により復興させた「菩提配」を造る過程を見ると、乳酸菌を発酵させて造るのですが、これは紹興酒と同じ過程であるということ言われています。それでこの技術はどうも中国から来たのではないかというのがその先生の説なんです。

正暦寺の醸造業は約100～200年間続きまして、年商は現代の貨幣価値で20億円ぐらいだったそうで、それは正真正銘

の長寿企業であったといえます。大原さんによると、寺の外には記録が若干残っているそうで、例えば造った日本酒の量に応じて今でいいます税金のようなものを本山の興福寺に納めており、その記録から逆算すると今の20億円ぐらいの年商だったということが分かるわけです。

正暦寺が醸造業に参入できたのは、その技術がどうも仏教を学ぶ際の基礎学問として中国の文化、芸術、医学、科学もすべて勉強していたことから得たらしいのです。

興福寺の記録によると、200坊あるうちの20坊が醸造に関わる僧侶の僧坊であったということで、今でいう200名規模の研究員を抱える醸造研究所があったこととなります。醸造現場には僧侶以外の人をかなり雇っていたということなので、研究所のように事業としての経営を支える仕組みがあったからこそ、そこまで栄えることができたということのようです。

つまり仏教を学んでいた僧侶が、仏教を学ぶために習得した知識や技術を仏教ではない分野に転用したということです。これを現在に置き換えるとたとえば工作機械のメーカーはたくさんありますが、工作機械のメーカーの多くはもともと工作機械をつくっていたのではなく、たとえばかすりなど繊維製品を売っていて、そして次に織機を使ってそれを自ら織り出す。織機が故障したら、自分で直さないといけない。織機というのは結構複雑な機械ですから、織機を直している間に、どうも機械的なものをつくり出すことができるようになり、その織機技術等を転用し、工作機械メーカーになったというのが結構あります。

名古屋のマザックという工作機械メーカーは、もともと木工の加工をしていたところですが、それが最後には自分で木工の機械をつくっていたんですが、それを今、自動車産業に使われるような工作機械に転用したのが、今の工作機械メーカーというふうに言われています。

あるいは明治製菓にはメデイカルな部門もあるわけです。戦後、すぐにペニシリンを進駐軍がもたらしたときに、一番最初につくったのが明治製菓だったそうです。なぜ、明治製菓がつくったかという、明治製菓は糖類について、お菓子をつくるので研究したわけです。ペニシリンは糖分で菌が培養できるということで、戦後、お菓子をつくる機械で明治製菓がお菓子ではなくて薬をつくり出したということです。

今、いろいろな事業をやっている方は本業があるんですが、本業に必要な技術は何かということ洗い出すことがまず一歩であるというのが正暦寺の内容の趣旨です。

日本は長寿企業数世界一

実は日本というのは世界でナンバー1の長寿企業の数で、

4000社弱あります。ナンバー2がドイツで2000にも満たないということで、あとはヨーロッパの国がたくさんあって、アメリカなんかは150くらいしかないんです。日本に長寿企業が多いのはなぜだろうかというのが、私がそもそもこういう仕事をする発端でもありました。

これは一つの例ですが、岐阜にある鍋屋という、千利休に茶釜を納品したという証文が残っている企業です。永禄3年ですから1560年、450年近く前にできた企業です。それが今では従来の鋳物技術を転用してプーリーという動力伝動機を生産しており、日本国内シェア80%を占めています。

実はそういった企業の戦略というのはさっきの正暦寺の戦略と非常に似通っているというのがきょうのお話になります。ちなみに財務指標の話ですが、これは非常に不思議な結果です。寿命が長い企業ほど財務内容は悪くなる。これは老化して悪くなるのではなく、財務内容がすばらしい企業は短命だという逆説があります。私は金融機関の人間でしたので、銀行の支店長の前で言うと苦い顔をしています、実は財務内容をよくしようとすると消耗しすぎてつぶれてしまうのです。

長寿になればなるほど借金が多い、自己資本は少ない、手許現金が少ない。これはなぜかという、私の結論ですが、長寿企業というのは「人」を大切にします。不況でも解雇しない。人にそのノウハウが蓄積されるので、それが営々と継承されていくということで、人を大切にする企業ほど長寿企業であるというのが結論ですが、そのためには設備も要るし、お金も要りますので、当然借金は多くなるというのが長寿企業の一つの調べた内容でした。

企業の生存率

これは中小企業庁の白書にある間違いのない数字です(図1)。「生存率」という非常にショッキングな名前ですが、これは横軸に設立からの年次があります。だいたい30年たつと、企業の5割は消滅しているということです。ですから50年企業というのは5割ぐらい。あとの5割は消滅してしまっている。

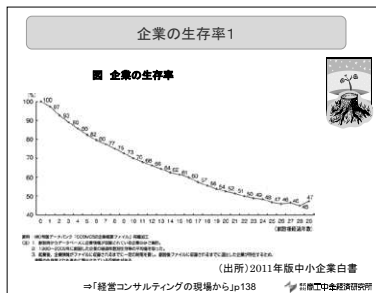


図1 企業の生存率

企業はよく「30年説」と言われていますが、実際の統計資料、これは帝国データの資料から作ったそうですが、現実は大変厳しい状況になっているということです。ですから常に事業の継続ということを考えていかないと、ここで途切れてしまう。その途切れないようにするのが経営戦略ツールの活用です。

経営戦略とは

経営戦略というのはどこにあるのか。神戸大学の三品先生によると、「人に宿る」といっています。ここでは「KKD」という

のが出てくるんですが、一つの「K」は「観」だと。何か情報が入ったときに何かに照らして、これはおかしいということがきちんと分かるかどうか。世界観とか人間観、歴史観。これは学べば身につくことです。

ところが問題なのは事業観。これはどういうふうに関者に会得されるのか、つまり学問的にも、理論的にも「こうすれば、これが習得できる」というのがなかなか難しいんです。あと経験(K)と度胸(D)というのがあります。経験というのは手口、技。度胸というのは自信。無理やりそれを決めてしまうのではなく、ある程度、腹の座った判断をする。そのためには「観」と「経験」が必要だと言っているわけです。ディズニーの後継者であるマイケル・アイズナーによると、創業のときの創業者の経験を自分も追体験しようと努力したということです。実は創業者が失敗したこと、あるいはいろいろと考えたことを振り返って、それを勉強することが一番の早道ではないかというのが先生の結論で、私もそういうふうに感じています。

いよいよきょうのテーマ「戦略ツール」です。(当日5つのツールを紹介しましたがここでは紙面の都合上、戦略を考える際の入口である「ドメイン」、結論の「ueshimaメソッド」に焦点を当て掲載します)

ドメイン

ドメインとは事業領域ということです。たとえば、アイリスオーヤマの例です。アイリスオーヤマはプラスチック製造業だったわけですが、アイリスオーヤマのドメインは生活提案企業となっています。

アイリスオーヤマは今ではプラスチックだけではなく弱電分野にも出ていますし、生活に必要なものはすべてやるという決め方をしています。事業は50年で半分近くなくなるという話をしましたが、どういう事業領域かととらえることによって、全然戦略は変わってくるわけです。

プラスチック製造業だと思ってしまうと、プラスチックの成型だけになるのですが、家庭の皆さんが心地よくなる、あるいは便利なものをつくれればいいということで、プラスチック以外のものを編み出していったのがアイリスオーヤマになるわけです。

ここで自社は何ものかということを顧客、技術、機能の三つから考えましょうということです。

ですから皆さんの企業もやっている事業によって、どういったお客さんに評価されているのかという視点から、ドメインを考えるということが戦略の第一歩になってきます。

ueshimaメソッド(図2)

現在の路線で行くと仮定して、これが破たんする。そうするとそこで残ったもの、コアを持って新しい路線で事業を展開するという仮定の作業をするわけです。今やっている企業が、たとえば不幸にして倒産した場合、何が残るか。だいたい残るのは人です。人に技術が残る。その技術をもって、新しく何をやっていくかという考え方をやっていきたいと思います。



図2 ueshimaメソッド

た。これがまさにさっきの正暦寺の酒造になってくるわけです。

典型的なのは富士フィルムです。富士フィルムはもちろんカメラのフィルムを作っていました、これが2000年の54%を

ピークに2011年には1%しかないんです。今は何をやっているかという、コマーシャルでやっていますが化粧品です。肌に浸みこむような細かい粉体技術、それからコラーゲンです。もともとフィルムはコラーゲンからできていましたから、コラーゲンを使った化粧品。あるいは抗酸化技術を使ったものとか、いろいろな化粧品、製薬技術があって富士フィルムはいま生き残っている。コダックはフィルムにこだわったためになくなってしまったということになっています。

もう一つは、いわゆる広島の本です。奈良の本とは違うのです。熊野の方たちは奈良に出稼ぎにきたのです。みやげに奈良から筆を持って帰った。有馬にも筆の産地があったらしく、自分たちで筆を生産し始めた。実は熊野の本は学童用の筆をつくったらしいのですが、戦後、あまり証拠はあまりないんですが、GHQにより書道が禁止されたということがあって、書道の授業がなくなったんです。

それを聞いて、一気に需要がなくなるということで、自分たちの技術を使って絵筆と化粧筆に向かったんです。今、化粧筆はハリウッドのシェアの50%、化粧筆という熊野。残念ながら奈良ではないのです。

奈良はあまりにも恵まれて売れすぎた。熊野の場合はさっき言ったように、もうなくなってしまふ。学童用は需要がなくなってしまふと言われたので、非常に必死に新しい分野を探した。だから恵まれすぎると、なかなか難しいということです。

正暦寺がなぜ20億の事業を何百年も続けたかというのは、自分たちのコア技術は留学僧が持っていた中国の知識と技術に対する傾倒とか、あるいは語学力だと。それを生かして醸造業は時の政権の資金難から、自分たちを救ったというのが正暦寺の歴史でした。

ご清聴、どうもありがとうございました。

懇親会

(奈良県東京事務所上田所長の乾杯の発声により懇親会が開演)。

国会議員

奥野(御所市): 奥野信亮でございます。植嶋さんのご講義を伺って、広島の本の話をしてお



られたが、奈良県の事も捨てたものではありません。

呉竹ペンというのがあります。あそこの筆ペンは私はいろいろな人にお祝いで渡しているんです。毎年だいたい100本ぐらい使っていると思いますが、ぜひ植嶋さん、捨てたものではないと言ってください。

この奈良県人会も、私も毎年参加させていただいております。西さんがずっと苦労されて、いろいろな人を集めてこれたんだろうと思います。だんだん見ていると、若返ってきたなという感じがするんですが、別に年寄りが駄目だというわけではなくて、私も年寄りの範ちゆうですから。どうぞ今年1年、皆さん方が積極的に仕事をしていただいて、奈良県の名をどんどん吹聴していただいて、そして奈良県の地位を上げていくのご協力いただければと思う次第であります。

■初参加

浅間: 浅間香奈と申します。奈良県出身ではないですが、ご縁がありまして黒滝村のゆるキャラの「くろたん」という子がいます。その子にすっかりはれ込みまして、それからアテンドをさせていただいております。今では奈良県の各ゆるキャラさんのお手伝いとかをさせていただいております。そのご縁で、こうやって奈良県人会にも入らせていただきました。

西川(御所市): 農林水産省で畜産関係の仕事をしています。

山地(桜井市): 私は大学を卒業して、ずっと東京で働いて12年になるんですが、恐縮ながら奈良県人会というのを本当に今まで知らなくて、去年の夏ごろ、とある都内のビジネスセミナーで隣になった方が奈良県の方で、そこで初めてこの存在を知って、若手の会に呼んでいただいて、この場にいます。きょう、こうやって諸先輩方に囲まれて、いろいろな方と出会えて、何が貢献できるかということを考えたことはなかったんですが、これから奈良県の方、先輩方とお話をして積み上げていきながら、そういうことを考えていければと思っています。

伊東(奈良市: 奈良テレビ): きょうはこんなにたくさんの方にあいさつをさせてもらうとは思わなかったので、びっくりしております。こちらに来て、いろいろな方が奈良のよさを逆に教えてくださることに、ちょっとうれしさを覚えております。これからも奈良のことを忘れず、東京で頑張っていきたいと思っております。

田中(奈良市: 奈良テレビ): 東京へ来て5年がたちまして、ようやくいろいろな方々に顔も覚えていただいて、仕事をさせていただいております。奈良のよさをとりあえず、これからどんどん、どんどん発信していくような仕事ができればよいと考えておりますので、皆さんにもお力添えをいただければと思います。

森本(郡山市): BS朝日の森本です。もともと朝日放送におりまして、今は大阪へ出向しています。去年もこちらでごあいさつしたんですが、なんとか若手を増やそうと思ひまして、スカウト活動に励みまして4人連れてまいりました。だいたいテレビの仕事の関係者ですが、私はBS朝日に去年来まして、今はドキュメンタリーとか、今度はお笑い番組を4月から始めます。ナイツが司会の「お笑い演芸館」というのを木曜日に始めます。

もともと私は「新婚さん、いらっしゃい」のプロデューサーをしていましたので、それからM1グランプリのプロデューサーも7年間やりました。慶応大学の落研出身で、自分もお笑いをやっていました。それから笑い飯をひいきにしまして、奈良出身の笑い飯に対応していますので応援してやってください。以下四人が私スカウトした面々です。

田辺 (榛原町) : 森本さんとは年末の12月の納会のときに奈良県出身というわさを聞いたので、かなり怖そうなみてくれたんですが、ちょっと勇気を出して話しかけると、すごく気さくな方で奈良県の県人会に行こうと12月時点でお誘いいただきまして、この日をすごく楽しみしておりました。

せっかく仕事がテレビ局ということなので、地元貢献したいという思いもあるので、奈良県を盛り上げるような番組を、私はつくる側ではないんですが、営業として、スポンサーに提案して地元貢献できればと思っています。

岩本 (奈良市) : 東京ヤクルトスワローズの岩本真帆です。14年振りに優勝させていただいて、いろいろな方とお会いさせていただくんですが、やはり東京ヤクルトスワローズは関西ではまだまだ浸透していないので、これからも浸透させていただきたいと思っているのと、あと私はスポンサーの営業をしていますので、ぜひ、スポンサーに興味がある会社さまや、もちろん奈良県をPRさせていただきたく思いますので、またご興味があれば私まで、よろしく願いいたします。

山崎 (当麻町) : ジャンプの山崎薫と申します。きょうは初めて、こういう会に参加させていただきましてありがとうございます。私自身はもともと、今はもう市町村合併で葛城市になってしまいました当麻町出身ということで、奥野さんと本当にお近くのところ、さっきびっくりしたんですがその後、神戸の大学に通い、奈良から往復4時間ずっと通っていたんですが、阪神大震災がありまして、「親元から通え」という親の命がありまして、そのまま大阪の大和証券さんで働いた次第です。

その後、転職して、今は興味があったテレビの業界に入らせていただいて、「ビフォーアフター」という家をリフォームする番組をさせていただいています。番組のほうは皆さん、関西だと本当に視聴率がよくて、皆さんああいう家族のドラマが本当に大好きでよく見ていただいているんですが、もしよろしければ、いつでも番組へご応募いただけたらと思いますので、私にご連絡いただけましたら、ちょっと近い立場なので、ぜひ番組でやられるように頑張れたらなと思っています。

森本 (生駒市) : 森本万里奈と申します。私は大学は京都で、卒業後朝日放送で働いていましたが、この度NHK奈良放送局のアナウンサーに採用されることになり、3月に奈良に帰ることになりました。生駒市の出身なので、本当に大阪と京都と奈良の県境に住んでいて、周りのことは何も知らないの、これからNHK奈良の「ならナビ」という夕方の番組のキャスターとして、いろいろなところに取材に行きますので、奈良県をいっぱい知っていただけたらと思います。あと「ひるまえほっと関西」という番組にも出演予定ですので、ぜひ、見ていただけたらと思

います。

吉崎 : 柿の葉寿司たなかの吉崎です。なんで阪本君を連れてきたかといいますが、去年の新年会でお会いしまして、そのあと田中のアルバイトでいろいろお手伝いしていただきました。実はなんと司会の阪本さんのお子さんだということでした。

阪本 (橿原市) : 吉崎さんにいろいろ、去年の3月ごろからずっとアルバイトをさせていただいてまして、今年1月から、日本パーズという車の潤滑剤とかを扱っている会社に就職しました。

柳澤 (斑鳩町) : 幼少期、奈良で過ごしまして、現在は斑鳩町に実家がありますので、そのご縁で参加させていただきました。実は先日の若手の会に初めて参加させていただいて、大本の県人も、きょう初めて参加ということでございます。自分が年を取ってきまして、だんだん奈良に対する愛着というか、やっぱり奈良はよかったなという思いが出てきて、もっともと奈良のことを知りたいということで参加させていただきました。

中田 (奈良市) : 若手の会と併せて、今回は2回目の参加になります。プラスチックカードの印刷の事業を営んでおります。私は中学校、高校と大阪府の私立明星中学、高校に行っていたんですが、出身は大阪で、私は徒歩通学だったんですが、みんなは近鉄奈良線に乗って通ってくるわけです。私は10分で家に着くわけですが、みんなは電車で仲よく通学しているので、すごくうらやましいなと思っていました。

私が高2のときにあこがれの奈良県に家が引越すことになりました。実家は富雄の帝塚山住宅というところ。みんなと一緒に電車通学できるのがすごくうれしくて、奈良県はすごく好きだということで、東京に来て、先日、馬淵議員のパーティでこういった会があるということを知りまして、今回初めて参加させていただいております。

今後も、またこの会で、皆さまからいろいろ刺激や学びをいただきたいと思っています。

古川 (橿原市) : 香港から帰国して、4年間東京に住んだんですが、介護のことがあって奈良に帰ってから久しくなりました。現在は月に2、3回、奈良と東京を行ったり来たりしております。

■賛助会員

吉原 (広陵町) : 近鉄東京支社の吉原と申します。きょうは植嶋さんのご講話の中で、鉄道事業者というのはいろいろと地域の発展に寄与してきたということで、非常にお褒めの言葉をいただきました。これからやはり少子高齢化ということで人口がどんどん減っていくような時代ではございますが、地元の皆さまに親しまれる鉄道会社として、ますます頑張っていきたいと思っています。

また奈良県ではないんですが、5月末にはサミットもありまして、伊勢志摩のほうも、これから力を入れていかなければならないと思います。秋口には、逆に奈良ですが、吉野のほうに観光列車を走らせる予定でございます。上質な、大人向けの列車を走らせることになっておりますので、きょうご参加の皆さまにはちょうどうってつけの電車かと思っていますので、ぜひまた

ご利用いただければと思います。本日はどうもありがとうございます。

井戸(榛原町)：奥村組の井戸と申します。よろしく、どうぞお願いいたします。私は毎年4月8日前後に、車で奈良に帰省しております。ちょうど桜の季節でございまして、帰りは夜なんです桜を見ながら、リラックスしながら運転を満喫しております。

奈良に帰りますと私は榛原でございまして、美榛苑という保養施設に泊まるんですが、3年ほど前、夜は雨が降っておりまして、朝起きますと桜の花びらにうっすらと雪が積もってありました。偶然の出来事だったんですがとても感動いたしました。これからまた帰るたびに何か、偶然が起きるのかなということで楽しみにしております。

続いて、以下の皆様からご挨拶や近況報告などいただきました。

竹内(奈良市)：私はもう最高裁判事を70歳定年で辞めており、今はブラブラしております。確か去年は101歳の母親の話をしたと思うんですが、102歳をきちんと迎えまして、今もまだ生きております。昨年9月に102歳の誕生日を迎えまして、去年ここでお話した状況とまったく同じです。私はそこで短歌を作りました。奈良を愛した歌人というのはたくさんおられます。有名な会津八一さんとか、前川佐美雄さんとか、いろいろおられます。

私は弟子入りしたこともないんですが、母親を見ていると、102歳で横たわっている母親がパッと目を開けて、私をじっと見つめて、それでしばらく見つめた上で認知して、パッと笑顔になる。それで歌を作りました。「じっと我を見つめて40秒、母はパッと笑いたまえり」という歌です。以上は報告でございます。

それからもう一つ、去年奈良との関係では、私は奈良県立大学客員教授を知事から話があって務めております。そのサマーコースで講演をする機会がございました。それはサマーコースなものですから、外国からの短期留学の方がたくさんおられて、主に中国と韓国の人、それとベトナムの人です。中国と韓国から、それぞれ15名ずつぐらい来られていました。

8月20日でした。ちょうど去年ですから戦後70年の総理談話が出たあとだったんです。極めてチャレンジングなんですが、私は「戦後賠償と総理談話」という演題にしまして、日本が戦後70年の歴史において、どのようなことを戦後の営みとしてやってきたかということ、主に中国の人と韓国の人を相手に説明いたしました。

ほとんどの人たちが知らないわけです。サンフランシスコ平和条約のあとの賠償から始まって、日韓国交正常化のあと日本が経済協力で、当時の日本の外貨準備が20億ドルしかないときに、5億ドルの援助を韓国に行った。今では考えられま

すか。外貨準備の4分の1を韓国への賠償とは言いませんが、経済協力の名目で償いといいますが、協力をしたということがございます。それから中国においていろいろな、中国の今の人たちが生活するにあたって必要なインフラを日本が国交正常化のあとでやったという話を具体的に挙げました。

講演が終わってから、たとえば韓国の学生が私に話しかけてきて、「きょうはいい話を聞きました。私たちはこんなことを聞いたことがなかった。知らなかった」ということを言ってくれました。中国の人と同じような反応でした。

そういうことで去年は戦後70年を乗り切って、日本としてはまた次の時代に入っていきわけてございまして、奈良という土地で、そういう講演を中国と韓国の数少ない人に対してです。できたということは、私にとって非常に重要な時でございました。

高井(五條市)：私は株式会社トーテツという会社をやっております。私の祖父が五條の出身で、祖父がつくった会社なものですから、そんな関係でこの会に出席させていただいております。最近、会社で雨水を貯めて利用するというのに力を入れています。雨水の利用というのは水問題を解決していく非常に重要なテーマです。ぜひ、多くの方にご理解をいただきたいと思っています。一つ雨水利用のトーテツということで、ご理解いただければと思います。雨水利用では、私どもよりずっと大きな会社ですが、確か奈良県の会社もいくつかあるので、もっと県人会にも、そういう企業が出てきてもいいのではないかと考えています。

辰巳(大和郡山市)：東京に来て20年になりますが、会員は10年ぐらいやっています。地方創生に関する仕事をしており、奈良県のいろいろな市町村出身の皆さんとお話させていただきたいということで参加させていただきました。

橋(奈良市)：ご縁がありまして2年間、奈良県人会に参加させていただいたんですが、この歳で大学院を修了したみたいな形になりまして、4月から奈良へ帰りまして、奈良が盛り上がるようなビジネスを自分で立ち上げようと思って、いま準備しております。新しいビジネスをまた皆さんとできればと思っております。2年間、どうもありがとうございました。

(養徳学舎の稲田舎監と寮生の挨拶に続き阪和興業社長の古川氏の中締めにより盛会のうちにお開きとなった)



●● 東京奈良県人会若手の会記録 ●●

日にち 2015.12.03

場 所 レストランsun-mi高松 銀座七丁目店

内 容 第10回奈良若手の会

テーマ：講演会・親睦会

12月3日(木)、昨年に続き、レストランsun-mi高松 銀座七丁目店において、講演会及び親睦会を実施しました。

今回も、奈良県東京事務所に共催いただき、講演会では、奈良市観光大使で料理研究家の海豪うるるさんに「奈良のおせちに料理」について、そして奈良新聞社記者の矢部さんからは、「今年の奈良の10大ニュース」についてお話しいただきました。

その後は、親睦会では、各市町村の物産品(柿、お酒、醤油、素麺、お米、お箸、お茶、トレーナー、ゆるキャラぬいぐるみ等)を紹介しながら、ふるさと納税のPRを兼ねた大くじ引き大会を実施しました。

当日は、奈良県出身者、県にゆかりのある方、更には奈良県が大好きの方まで参加いただき、合計98名(内初参加者32名)にご参加いただき、最年少は25歳でした。今年は、10月に30歳前後の15名が集まり、「バンビ会」を結成し、新たな広がりを感じさせる1年の締めくくりとなりました。



日にち 2016.01.29

場 所 奈良まほろば館

内 容 第11回奈良若手の会

テーマ：奈良・食べる通信とのコラボ企画

第11回若手の会は初参加6名を含む40名にお集まりいただきました。

今回は初めての真面目な勉強会をコラボレーションで企画しました。

昨年12月に奈良県内の「食」を紹介するタブロイド紙「奈良・食べる通信」を創刊した福吉貴英編集長をお招きし、奈良の食に関する話をお聞きました。

同紙の創刊号が宇陀市の野菜である「宇陀金ごぼう」ということで、生産者の宇陀市柏木英俊さんや購読者代表をお迎えし、食に関する熱いトークショーが展開されました。

後半は1Fに場所を移し、福吉編集長やスタッフの方が宇陀金ゴボウと大和ポークの豚汁、奈良野菜をふんだんに使って作ってくださった豚汁をいただき、参加者の皆様には大好評でした。



日にち 2016.03.18

場 所 奈良まほろば館

内 容 第12回奈良若手の会

テーマ：道の駅特集

第12回若手の会は初参加9名を含む約50名にお集まりいただきました。

前半は主に吉野郡にまつわるクイズ大会でした。

クイズはなかなか難しく、奈良のエキスパートが集まるこの会でも全問正解者は一人もいらっしゃいませんでした。

(ここでせっかくなのでいくつかご紹介)

問1「奈良県内に道の駅は何か所あるでしょう?」

問2「道の駅施設内に天文台がある施設はどこでしょう?」

→答えはこの記事の最後に

後半はみなさまお待ちかねの黒滝こんにやくに舌鼓をうちつつ、奈良地酒である八咫鳥で乾杯をいたしました。黒滝のこんにやくは味が「しゅん」で歯ごたえがあり、とても美味しく皆様に大好評でした。

シークレット食材として十津川村の温泉ウナギも登場!あっという間になくなってしまうほど大好評でした。

(クイズの答え)

問1の答え 12か所

問2の答え 吉野路大塔(五條市)



●● 奈良まほろば館からのお知らせ ●●

奈良県人会の皆様には、平素から奈良まほろば館の運営にご支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

奈良まほろば館は、リニューアルしてから3年目となり、品揃えが充実した大和野菜などの生鮮食料品を求めて来館されるお客様も、着実に増えてきています。さらに、奈良の魅力発信に繋がる各種イベントや講演・講座を随時開催し、奈良のファンを増やすように努めてまいります。

なお、今年度上半期に予定している主なイベント等は下記のとおりです。

皆様のご来館をお待ち申し上げております。

——● 28年度奈良まほろば館 上半期の予定(4月～9月) ●——

4月

- 奈良工芸作家6人展
- やまと花ごよみ2016「馬見チューリップフェア」
- 春日大社 ～今日あることへの感謝を伝える、式年造替～

5月

- なら仏像館リニューアルオープン記念「なら仏像館の仏たち」
- 「マンガで楽しむ古典 万葉集」紹介パネル展
- 橿原考古学研究所附属博物館(春季特別展) ブリーフガイド

6月

- 奈良・西ノ京ロータスロード ～蓮とご朱印めぐりを楽しむ旅～
- 生誕800年記念「忍性」展
- 私がとらえた大和の民俗一衣一
- 美術散華展

7月

- ようこそ!能楽お囃子のふるさと大淀町(大淀町)
- 奈良県景観資産パネル展
- 天理・桜井・磯城3町の魅力紹介(天理市・桜井市・田原本町・三宅町・川西町)

8月

- 「奈良 興福寺 国宝特別公開2016 五重塔 三重塔」紹介パネル展
- 南朝の里「吉野」～後醍醐天皇とその皇子たち～(吉野町)
- 橿原考古学研究所附属博物館(速報展) ブリーフガイド

9月

- 奈良の自然環境パネル展

<http://www.mahoroba-kan.jp/>
電話:03-3516-3931

※このほかにも、「南都法話会」、「奈良・シルクロードの会」、奈良女子大学との連携講座や写経教室などの文化講座も実施しており、詳細情報や申込み等は奈良まほろば館のホームページをご覧ください。お問い合わせください。

【奈良県産野菜のご紹介】

奈良まほろば館では、ほぼ毎日届く新鮮な奈良県産野菜の販売に力を入れています。特に県では、「大和の伝統野菜」と「大和のこだわり野菜」を「大和野菜」として、ブランド化を進めています。

戦前から奈良県内で生産が確認されており、地域の歴史・文化をうけつた独特の栽培方法により、「味、かおり、形態、来歴」などに特徴をもつ、大和まな、大和丸なす、ひもとうがらし等20品目を「大和の伝統野菜」、栽培や収穫出荷に手間をかけて栄養やおいしさを増した、大和太ネギ、大和寒熟ほうれん草、半白きゅうり等を「大和のこだわり野菜」と認定されています。

皆様、ふるさと奈良の野菜をぜひご賞味ください。





ふるさとコーナー

都市と田舎が
融合したまち

河合町



【概要】

河合町は、奈良県の北西部に位置し、古くより大和川の水運などを活用して文化の結節点として栄えました。昭和40年代中頃からは都市化の波を受け始め、西大和ニュータウンの建設など、大きく市街化の進展がみられ、町域8.23km²の中に昭和45年で約7,600人であった人口は現在約2万人弱となっています。



河合町役場庭園(旧豆山荘)

【特長】

昔ながらの田園風景や町並み、丘陵部分の「緑」、そして整然とした市街化区域がバランスよく存在し、「総合的な住みやすさ」=「暮らす価値の高さ」を実感できる地域です。必要な商業娯楽施設がコンパクトに点在、開業医が多種で豊富、高速道路のインターがある他、鉄道駅が3駅、交通バスがループ状に走っており交通の利便性が良い、大阪都市圏への通勤圏、奈良県内の歴史文化遺産を巡るのに絶好の位置（へその位置）にある、四季の花が楽しめる散策や余暇利用に最適な広大な公園がある、全国屈指の私立進学校があるなど、子育てのほか様々なライフスタイルに適した環境にあります。

【歴史】

町の歴史は古く、約15000年前の旧石器時代に人々の生活の痕跡が見られ、続く縄文時代以降、各時代の遺跡が残されています。中でも、多くの鏡が出土した佐味田宝塚古墳や復元されたナガレ山古墳、帆立貝形古墳の乙女山古墳、200m級の大塚山古墳は全国的にも有名です。近世以降は大和川の水運の発達とともに栄え、明治以降には、果樹栽培とその商品化や灌漑水路網の実現など、奈良県下でも最も進んだ農業が営まれていました。大規模ぶどう園づくりは、町の本格的な開拓事業とともに、大正期に始まりました。



ナガレ山古墳

【観光】

天武天皇が、大和川北岸の龍田神社を風の神、また、廣瀬神社を水の神とし、一對の神として祭られたといわれ、町の東部にある廣瀬神社は、古代より水の神、水田を守る神、五穀豊穡の神として手厚い信仰を受けてきました。毎年2月11日に行われる「砂かけ祭り」は、豊かな実りを祈願する御田植祭で、砂を雨に見立てて掛け合うことから「砂かけ祭り」と呼ばれ、大和の奇祭として有名です。

また、全国屈指の古墳が集中する自然豊かな丘陵につくられた県立馬見丘陵公園は、東京ドーム約12個分に相当する広さを誇り（平成24年6月現在）、春夏秋冬鮮やかな花々に触れることができる人気のスポットです。町役場の玄関口である近鉄池部駅からつづく約1.3kmの散策道（緑道）では、花木をあじわいながら散歩やサイクリングが楽しめます。



砂かけ祭り



ラインスタンプ 配信中



河合町公式 Facebook

「すな丸の秘密基地 feat. 河合町」

<http://www.facebook.com/sunamaru0211>



よろしく
すな〜

ふるさとコーナー 日本一雨の多い村 上北山村

上北山村は、人口565人(平成28年3月1日現在)の小さな村で、奈良県南東部の「奥吉野」と呼ばれる地域に位置します。本村は東に台高山脈、西に大峯山脈に囲まれており、西の台高山脈は今年2月に吉野熊野国立公園指定80周年を迎えた大台ヶ原山を中心としており、本年3月20日に村全域が「大台ヶ原・大峯山・大杉谷ユネスコエコパーク」に地域を拡大して指定されました。また、東の大峯山脈は平成17年に世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に指定されており、歴史ある大自然の観光スポットが作りだす四季折々の魅力を味わいに多くの観光客が訪れます。



本村では、集落内から大台ヶ原へと続く急峻なコースを利用した「ヒルクライム大台ヶ原since2001」と呼ばれる自転車レースが平成13年より開催されています。雄大な峰々を望みながら走ることのできる距離約28km、標高差約1,240mのコース設定は、初心者や上級者問わず多くの自転車愛好家に好まれ、去年は村民数をはるかに上回る864名の申込をいただくなど、多くのリピーター等の参加者が訪れています。「大台ヶ原を活用し、上北山村の知名度を上げたい。」という目的で村民が

一丸となり取り組んでいる本大会は、今年9月11日に第15回大会を開催します。昨年より外国人枠を設け、海外の方へも対象を広げています。また、同じく大台ヶ原ドライブウェイを活用した「大台ヶ原マラソンinかみきた」と呼ばれる距離約21.0975km(ハーフ)、標高差約941mのマラソン大会が平成26年より開催されており、今年5月22日に第3回大会を開催します。先のヒルクライム大台ヶ原と合わせ、2度の季節に分けて多くの選手にお越しいただき、村が活気づいています。



教育の分野では、平成26年度より保・小・中一貫教育がスタートし、保育園児5名、小学生1名、中学生8名(平成28年4月1日現在)を地域ぐるみで見守るコミュニティスクールを実践しています。また、教育委員会主催の「森の学校」では、森の中で“生きる”ことを経験し、村に住むお兄さんたちから山村ならではの知恵を学ぶことができます。このような山村ならではの様々な体験学習や教育を展開しています。更に、平成27年度より中学生を対象に、隔年で「オーストラリア ホームステイ」を開催しています。日本とは全く文化も言語も異なる国で、子どもたちは人や文化、自然等、多くのことに触れ、様々なことを体感し、その経験を日々の生活に活かしています。また、上北山村ではALT(日本人教師の助手として、生きた英語を子どもたちに伝える外国人)が1名常駐しています。教育委員会では、上北山村だからこそできる新しい事業を常に考え、実践しています。



加えて、平成28年3月より新しく制定された「子育て支援金」をはじめ、移住者への暮らしやすい制度も充実しています。「子育て支援金」は、本村に1年以上居住している満1歳～満18歳までに毎年10万円、更に小学校入学時・中学校卒業時には各10万円を支給します。また、本村に3ヶ月住所を有する父母より生まれた生後1ヶ月を経た新生児に対し、「誕生祝い金」を支給します。

第1子誕生時には10万円、第2子には20万円、第3子には30万円、第4子には40万円、第5子以上には50万円を支給します。

上北山村は、“大自然の力みなぎる癒しの郷”として、大台ヶ原や大峯奥駈道をはじめとした雄大な自然や、透きとおった美しい清流を活用したスポーツやイベントを開催し、本村の魅力を多くの方に体感いただいています。誰もがいつまでも「住み続けたい」と思える村づくりを進めるとともに、村外の方からもぜひ「住んでみたい」と思ってもらえる魅力ある村づくりを進めています。上北山村へお越しの際には、ぜひ、四季の魅力を感じながらゆっくりとした時間をお過ごしください。

●● お知らせ ●●

● 奈良県東京事務所人事異動(4月1日付) ●

[転出]

東京事務所所長	上田 博文	→ 議事事務局局長
東京事務所課長	松村 憲一	→ まちづくり推進局公園緑地課課長補佐
東京事務所行政課行政係長	倉本 典昌	→ 景観・環境総合センター指導第一係長
東京事務所情報発信課主査	大西 貴之	→ 産業政策課産業政策推進係長

[転入]

東京事務所所長	中 澤 修	(知事公室次長 防災統括室長事務取扱)
東京事務所課長	喜多 正博	(県土マネジメント部企画管理室予算経理係長)
東京事務所行政課主任主事	田中 宏紀	(健康福祉部障害福祉課)
東京事務所情報発信課主任主事	井阪 素也	(くらし創造部消費・生活安全課)

● 年会費納入のお願い ●

新年度の年会費のお支払いにつきましては、

[振込先]

ゆうちょ銀行 郵便局用振替用紙
(口座番号等:00170-2-323480)

※他金融機関からの振込の場合は〇一九(ゼロイチキュー)店
(当)0323480

南都銀行 東京支店(普)2002626
一般社団法人東京奈良県人会

[年会費]

賛助会員:1口2万円×2口以上
参与会員:1万円 一般会員:3千円

● 平成28年度総会・懇親会のご案内 ●

来る6月7日(火)ホテルグランドパレス(東京・九段下)にて、平成28年度総会・懇親会を18時30分より開催いたします。会場の詳細や出欠のご回答などは同封しましたご案内・はがきをご参照ください。また、御欠席の方は、同封のはがきにて委任状をご提出くださいますようお願い申し上げます。



第2回 参 与 会

2016年1月19日(火)、港区白金台のレストラン「CIEL ET SOL (シエル・エ・ソル)」で第2回参与会を開催しました。CIEL ET SOL (シエル・エ・ソル)の入る施設「ときのもり」は、奈良県が「奈良の食」のPRの一環として企画した本格的フランス料理店と物販店の複合施設です。建材や内装品にも奈良県産の良い物が使われており、なかなか結構な雰囲気醸成しています。

オープンしたてのレストランでフレンチと歓談を楽しみました。

